

検査選択のフロー（院外用）

【がん遺伝子パネル検査の適応】

- ・固形がんである
- ・予後3か月以上と判断でき、PSが0～1である
- ・標準治療が終了している。または最終治療中である

はい

いいえ

組織検体での提出が可能である。
又は再採取できる。
(ブロックでの提出不可)

- ・標準治療が終わってない方は
標準治療継続へ
- ・緩和の方針へ

※固形腫瘍の腫瘍細胞を検体とすることが
原則であり、例外的に血液検体での提出が
可能

はい

いいえ

病理組織事前診断への申し込み
※がんゲノム外来受診の流れ（組織検体検査）へ

不明な点がある場合は、
担当医に問い合わせを
することがあります。

検体適当

検体不适当

【選択できる検査】

- ・Foundation One CDx
- ・NCCオンコパネル

【選択できる検査】

Foundation One Liquid CDx
但し、以下のチェックリストが満たされるものに限る

- 病理検体が3～5年以上経過しており、侵襲的な場合などにより、腫瘍組織検体の再採取が不可能である。
- 検査提出までの1か月間、化学療法を行っていない。
- 現在の治療が奏効していない。
- 患者にLiquid検査で得られる結果は、治験情報が少なくなる旨を説明している。

上記のチェックリストが満たされない
場合は検査への申し込みの再検討
をお願いします。

5-1 がんゲノム外来受診の流れ
(組織検体検査)

5-2 がんゲノム外来受診の流れ
(Liquid検査)

※一度提出して検体がDNAの品質不良などで結果が得られなかった
場合のみ、組織検体、またはLiquidの再提出が可能。